

2020年12月29日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【年末年始相場】

先週末のクリスマス（12月25日金曜日）を終えて、年末年始に突入しています。

日本の場合は、クリスマス休暇よりも、お正月休みの方が重要視されるのですが、海外市場の場合は、クリスマスを終えると、年初の相場には、「よーいドン」といった雰囲気があります。

つまり、海外勢は、年始の相場で、スタートダッシュをしたい、といったところでしょうか。

ここ数年程度の年始の相場では、重要なチャート・ポイントを、いきなりブレイクするなど、まさに、気を抜けない値動きを示すことが、多々ありました。

今年（2020年）のクリスマス明け（つまり、今週初）の値動きを見ても、「ユーロ/ドル」や「豪ドル/米ドル」が、高値更新を窺う展開をするなど、重要なチャート・ポイントを意識させる値動きになっています。

来年（2021年）早々には、新しい米国大統領（バイデン大統領）の就任式が控えており、それを見越しての相場展開を読んでいく必要があるだろう、と考えます。

トランプ現大統領が、どのような対応をするのか、未だに、不確定要因は残っていますが、基本的には、

「バイデン新大統領の政策が、マーケット（市場）に、どのような影響をもたらすのか？」を考察することになります。

トランプ現大統領とバイデン新大統領の違いを比べると、バイデン新大統領は、世界とのバランスを考慮するのではないかと考えます。

つまり、トランプ現大統領は、ワンマン的であり、自らの政策を強引に押し進めるスタンスであったのに対し、バイデン新大統領は、同盟国に協力を求めての政権運営を行うのだろう、ということ。

見方によっては、トランプ現大統領の「強いアメリカ」に対して、バイデン新大統領の「弱いアメリカ」に映るのではないかと考えます。

クリスマス明け（つまり、今週初）の値動きは、微妙に、そういった雰囲気を示唆しているのではないかと考えます。

先に述べた通りに、ここ数年の相場では、年初早々に、重要な値動きをすることが多々あったので、来年（2021年）も、年初早々に、同様なことが起こるのではないか、と構えています。

怠りがないように、年末年始を迎えたい、と構えています。

+++++

（2020年12月29日東京時間13：50記述）